

令和元年度 事業報告書

I 概要

「高岡市総合計画第3次基本計画」では、「豊かな自然と歴史・文化につつまれ、人と人がつながる『市民創造都市』高岡」というまちの将来像に向け、「歴史・文化」分野において、めざすまちの姿を「暮らしの中に万葉と前田家ゆかりの文化が息づいている」まちとして掲げている。

これを踏まえ事業団では、地域に根ざした創造的な芸術・文化活動の育成に向け取り組みとともに、各文化施設等が市民に有効に活用されるよう、事業団独自のノウハウやネットワークを活かし、利用者ニーズに沿った施設管理と事業展開に努め、高岡市の芸術・文化の振興に貢献する。

○ 文化施設等の適正な管理と利用の促進

令和元年度は、万葉歴史館・美術館・博物館・青年の家・ミュゼふくおかカメラ館・動物園の6施設の第4次指定管理協定期間(平成29年度～令和3年度)の3年目になり、平成28年度更新したまなび交流館(平成28年度～令和2年度)を含め計7施設の管理運営を行った。事務局事業課は、これまでの公演事業等を継続しつつ、まちなかの賑わいと潤いを創出する事業に新たに取り組んだ。加えて生涯学習事業を受託した。藤子・F・不二雄ふるさとギャラリーについては、引き続き業務を受託した。

各文化施設等が利用者に安全・快適に施設を利用していただけよう、施設管理に万全を期すとともに、利用者のニーズに沿った施設管理と事業展開に努めた。

II 各施設の事業内容

1 事務局事業(文化振興事業)

4月には北陸最大の音楽の祭典「風と緑の楽都音楽祭」高岡公演として、野村小学校ウインドアンサンブル「オープニング・ファンファーレ」、生涯学習センターホールではピアニスト・舘野泉ほかによる「左手の音楽会」及び池辺晋一郎、加羽沢美濃、新垣隆による「作曲家たちのひらめき大会」の2公演、音楽祭初の勝興寺公演を開催し、全4公演を通して多くの来場者が身近に音楽の素晴らしさを楽しむことができた。

5月には市内小学4年生全児童を対象に、26回目となる未来へ繋ぐ舞台鑑賞事業「10才のファーストコンサート」(2回公演)を高岡文化ホール大ホールにて開催した。

6月には前年度にオーケストラ公演で共演した高岡工芸高等学校吹奏楽部20名と高岡高等学校吹奏楽部40名がBS音楽番組への出演収録を行い、9月に「ふるさと高岡」吹奏楽版の演奏とともに放映された。

8月には「仲道郁代&3台のピアノコンサート」を開催し、生涯学習センターホールが所有する3台のコンサートピアノの活用及び地元若手演奏家3人の共演による精力的なプログラムで多くの来場者を魅了した。同じく高岡文化ストッククラウド事業「天才たちと何できる?」では、第5弾としてコンテンポラリーダンスカンパニー「んまつーぽす」が保育士を目指す学生たちを中心に公開ダンスワークショップを福岡町のまちなかへ飛び出して開催、3月には第6弾として大阪音楽大学長の本山秀毅による公開合唱ワークショップ及び成果発表コンサートを行う予定であったが中止となった。

9月には音楽文化のまちづくり事業「オーケストラ・アンサンブル金沢 with 合唱団 OEK とやま」を、石川県音楽文化振興事業団及び「合唱団 OEK とやま」との共催事業として高岡文化ホール大ホールで開催した。指揮者に山下一史、ソリストに地元演奏家4人を迎え、合唱組曲「富山に伝わる三つの民謡」ほか壮大な合唱オーケストラの魅力を満席の来場者に届けた。同じく富山県公立文化ホールネットワーク公演事業「郷土の演奏家&オーケストラ・アンサンブル金沢メンバーによるコンサート」を、高岡市出身の声楽家・澤山晶子と OEK 弦楽四重奏メンバーを迎えて開催し、満席の来場者を魅了した。

4月より年間を通して、設立20周年を迎えた高岡市民会館ホールサポーターの会「パープル」が、当課の自主事業にかかる表方協力及びホール視察研修会の実施のほか万葉歴史館ほか文化施設等にて毎月1回のペースでサロンコンサートを開催した。

また高岡駅や御旅屋セリオなど「まちなか」に賑わいを創出する「ユニークベニュー TAKAOKA プロジェクト」を新たにスタートし、6月より年間を通して約30回の「オンまちなかステージ」を開催した。また7月に文化情報誌「iku*cha」夏号を創刊し、季刊誌として4回の発行とPRに努めた。

高岡市芸術文化団体協議会(邦楽、洋楽、華道、茶道)及び高岡市美術作家連盟と共催し、「第49回高岡市芸術祭」(期間:10月26日から11月10日まで)を開催した。特に美術作家連盟展は創立70周年を記念し、富山大学芸術文化学部教員・学生の出品展示に取り組み盛会となった。自主事業「おでかけ公演・講座」では年間を通して市内小学校へ16回、7月には「夏のわくわくワークショップ」を邦楽器、能楽の2回、9月には「青少年わかば公演」を富山県高岡文化ホール「子ども生活文化展」と連携し開催した。さらに創立50周年を迎えるための準備も進めた。

2 事務局事業(生涯学習事業)

市民の生涯学習及び交流の場を提供し、本市における生涯学習の振興を図るため、さまざまな事業を実施した。

生涯学習センター講座開設事業では、「万葉の植物」や「前田家のまちづくりと町民文化」をはじめとした多彩な自主講座や、県内の大学と連携して実施する専門的な講座、小中学生を対象とした能楽講座等を開催した。

リトルウイングにぎわい創出事業では、「2019街角クラシック in Little Wing」や「SONGS LONG VACATION」を開催し、好評を博した。

3 万葉歴史館事業

万葉歴史館では、平成31年4月1日に『万葉集』が典拠となった新元号「令和」が発表され、『万葉集』をテーマにした全国初の専門施設である高岡市万葉歴史館と、万葉のふるさとの高岡市が脚光を浴びる中で、「令和」と『万葉集』や 越中万葉、『万葉集』をテーマとした展示や学習講座、各種イベント等を開催し、「万葉のふるさと高岡」と『万葉集』の魅力を全国に向けて広く発信した。展示等とあわせて、「令和」と『万葉集』に関するマスコミ報道、高岡市・富山県等による新元号「令和」関連イベント等にも協力し、富山県内と全国各地から6万人を超える来館者があり賑わった。

展示機能では、企画展示は、前年度に引き続き「越中国と万葉集」を開催した。新元号発表記念特別展示「「令和」と『万葉集』～家持の父大伴旅人と梅花の宴～」では、梅花の宴と元号の典拠となった万葉集の部分について解説した。春の特別企画展「万葉を書く」では、万葉集のうたを様々な手法で書いた作品を紹介、秋の特別企画展「万葉を描く1 まつしたゆうり展」では、絵本作家・イラストレーターのまつしたゆうり氏が描いた『よみたい万葉集』に掲載されたイラスト等の原画31点を展示した。祝・即位礼正殿の儀 特別展示「再現 聖武天皇・光明皇后の礼服」では、古代衣装研究家の山口千代子氏によって再現された聖武天皇・光明皇后

の礼服等を展示し、華麗な奈良時代の宮廷世界と共に、天平万葉の歌世界を紹介した。特別展示「万葉のふるさと高岡フォトコンテスト入賞作品展」では、「家持の越の海」をテーマに募集した作品の中から入賞作を中心に展示した。あわせて学校移動展示「越中万葉パビリオン」を開催した。

教育普及機能では、例年実施している高岡万葉セミナーは「万葉を楽しむ」と題して開講した。学習講座は、館長講座「『日めくり万葉集』を読む」・「万葉集をよむ」・「古代への招待」・「大伴家持とともに」と、出前講座の「はじめての万葉集」(会場高岡市生涯学習センター)を前年度に引き続き開講した。あわせて臨地研修「第5回歌枕を訪う一能登国の歌の世界へー」、「第7回越中万葉ウォークー氷見ー」を開催した。また、富山大学での研究員による万葉集に関する講義等をし、学生が『万葉集』に親しんでもらえるように取り組んだ。

調査・研究・情報収集機能では、万葉歴史館の研究の成果を紹介する『高岡市万葉歴史館紀要 第三十号』、『高岡市万葉歴史館論集』20(『万葉を楽しむ』)を出版した。

観光・交流機能では、「令和」初日の5月1日を含む5月の連休中と、9月の連休中に開催した万葉衣装体験に約800人ももの来館者があり、好評であった。新元号「令和」の発表以降は見学が増加したが、万葉への魅力向上を期して、来館者に対しては、親しみやすくボランティア「和草」(説明員)が、学校や団体客等に対しては、研究員自らが案内をした。

新たな万葉のふるさとづくり事業(高岡市補助金)では、高岡市万葉歴史館新元号「令和」記念の特別企画の万葉歴史館館長による『万葉集』の講演を万葉ゆかりの地の福岡県太宰府市で開催し、あわせて、古代衣装研究家・山口千代子氏により、展示用の万葉衣装を製作した。

他館・地域等との協力では、万葉歴史館を会場とした新元号「令和」記念第4回こしのくに国府サミット in 高岡・企画展「越中国府・国分寺展」、夏を彩る芸文の扇子展、高岡市民会館ホールサポーターの会「パープル」のおでかけサロンコンサート等の各種イベント等が多数実施され、当館の利用促進につなげた。

新元号「令和」記念の特別企画等では、回廊に、新元号発表会見会場を再現したコーナーを設置し、令和の額とともに記念撮影ができるように対応する等し、来館者から人気を得た。

4 美術館事業

美術館では、郷土の美術・工芸の研究成果を収集・保存・展示に生かし、美術館活動の普及のために広範な教育活動を行っている。本年は高岡市美術館開館25周年であり、様々な記念企画展を展開している。

4月から5月にかけては、企画展示室1・2にて、数年ぶりの大規模コレクション展示となる「お祝い福袋」を開催した。新たな時代の幕開けにふさわしい、春を主題とした作品や吉祥の意匠を施した作品など、明るく縁起のよい作品を様々な分野から展示し、福袋のように多様性と魅力のある当館コレクションを紹介した。

また、企画展示室3では4月から6月にかけて「コレクション展 高岡の金工・漆芸」を併せて開催し、「ものづくり・デザイン科」に学ぶ児童・生徒たちへの教育普及を主な目的に、美術館所蔵の金工・漆芸の名作を展示し、地域の工芸の優れたわざと歴史について紹介している。

7月から9月にかけては、「夢のアール・ヌーヴォー アルフォンス・ミュシャ展」を北日本新聞社との実行委員会で開催した。今年没後80年を迎えるチェコの画家、アルフォンス・ミュシャの展覧会で、国内コレクターが所蔵する珠玉の作品約500点を展示。ポスターや装飾パネルをはじめ、本の挿絵や商品パッケージなど、ミュシャの幅広い創

作活動を紹介し、会期中には2万人を超える多くの方々にご来場頂いた。今回は所蔵者の強い意向もあり、すべての作品を撮影可能とする新たな試みも行った。

9月20日からは「明治金工の威風—高岡の名品、同時代の名工」を開催した。本展は「東京国立博物館収藏品貸与促進事業」の支援を受けており、威風に満ちた明治時代の金工の名品が一堂に会し、現在にまで受け継がれる超絶技巧の世界を紹介した。

11月2日からは「第49回 高岡市芸術祭 高岡市美術作家連盟創立70周年記念展」を開催。主催団体である高岡市美術作家連盟が今年創立70周年をむかえることを記念し、富山大学芸術文化学部との特別合同企画展示を行った。

12月から1月にかけては「第6回クリエイティブ・たかおか ～未来に輝く 高岡市児童生徒作品展～」を、2月には「富山大学芸術文化学部 大学院芸術文化学研究科 卒業・修了研究制作展-GEIBUN11」など、学校と美術館が連携し、市内の小学校から大学までの児童、生徒、学生らの作品を展覧した。

恒例の展覧会としての「高岡市民美術展」、「日本伝統工芸富山展」についても、各々地域の作家たちの成果を発表する場として好評を得た。

また、「高岡市美術館が街に出ます」や「高岡市美術館サテライトギャラリー」など、街中での美術館活動普及事業にも積極的に取り組んでいる。

藤子・F・不二雄ふるさとギャラリーでは、幼少から少年時代を高岡で過ごされた、日本を代表する漫画家藤子・F・不二雄先生のふるさと「高岡」での足跡をたどりながら、多数のまんが原画の展示を通じて、藤子・F・不二雄先生の「まんが」の原点や作品の楽しさを、国、県内外から来高された多数の来館者に理解を深めた。

企画展示では、前年度に引き続き、原画展「Fのロボ友原画展」を開催し、また、まんが「ドラえもん」の連載50周年を記念した「学年別ドラえもん展-のび太と一緒に大きくなった私たち-」の前期展示を開催した。

5 博物館事業

展示事業としては、昨年度から継続して5月まで館藏品展「昔の道具とくらし」を開催し、当館が収蔵する衣・食・住をはじめとした古い生活道具類「民具」に焦点をあて、それぞれの民具がもつ歴史や用途に加え、その時代を生きた人々の暮らしについて展示・紹介した。

常設展「高岡ものがたり」(通年開催)では、高岡の歴史・民俗・伝統産業を分かりやすく紹介し、団体見学への展示解説等を行った。常設展の内「お宝コーナー」では、「国産第1号の電気釜—新収蔵民俗資料—」、「新1万円札の顔・渋沢栄一の書簡」、「ものを象る～高岡ゆかりの彫刻資料～」、「勤王の志士・頼三樹三郎と高岡」を順次開催した。

また、7月から開始した特別展「高岡開町410年記念 前田利長書状展」では、2019年が高岡開町410年の節目にあたることから、本展では初公開史料のほか、当館が収蔵する前田利長の書状を中心に展示・紹介した(10月14日まで開催)。11月から開催した館藏品展「新収蔵品あれこれ」では、近年当館に新たに収蔵された資料を展示・紹介した。館藏品展「昔の道具とくらし」では、当館が収蔵する衣・食・住をはじめとした古い生活道具類「民具」を展示・紹介している(今回は天神画像・人形などを特別展示/次年度7月12日まで開催予定)。

教育普及事業としては、外部講師による郷土学習講座(全3回)、古文書講座「初めての古文書教室」(全6講)を開催した。また、桜の時期に合わせた屋上開放「古城公園展望台」のほか、呈茶の会「松聲庵—博物館で抹茶を楽しみませんか—」(春・秋)を開催した。また講師・委員の派遣協力、番組出演、寄稿、監修のほか、高岡テクノドームでの博物館サテライトギャラリーの実施なども行った。

資料収集・保存活動では、歴史・民俗・伝統産業にかかる資料の収集・保存に努めた。

調査研究活動では、日ごろ博物館に寄贈される資料の調査・整理に取り組んだ。また、国登録有形民俗文化財「高岡鋳物の製作用具及び製品」の国指定重要有形民俗文化財指定にかかる当館所蔵の鋳物資料調査を行っている。加えて当館収蔵資料情報のデジタル化を進め、計838件の資料情報をネット公開している。

6 青年の家事業

生涯学習の一環として、「文化教室」・「現代教養講座」・「交流支援事業」を実施してきたが、平成30年度末をもって廃止となった。

諸室の貸与では、13室の貸室があり、3階の能舞台では、能楽をはじめとする古典芸能に活用されている。

また、1・2階の研修室等では市民の学習・文化活動・芸能活動・各種会合等で利用されている。

7 ミュゼふくおかカメラ館事業

4月～6月は、関由香による「ねこうらら」を開催した。ユーモアと穏やかな温かみをテーマとして、猫の何気ない仕草や表情など、のびやかな猫の日常を紹介した。

6月～7月は、風景写真家として活躍する安念余志子「うたかた」を開催した。移りゆく風景と人生のはかなさを重ねた、心象風景を紹介した。7月より絶対風景「絶景でつづる日本列島」を開催し、5mサイズの超大型作品を交えた、これまでにない迫力のある風景写真を紹介した。9月は安珠写真展「ビューティフルトゥモロウ」を開催し、誰もが子供の頃に持っていた、美しい世界に気付く感性を表現した作品世界を展示した。山田利郎写真展「未だ自分の影があるうちに」では、高岡市在住でアマチュア写真家の活動を紹介し、シニア世代にエールを送る活力に満ちた作品をご覧いただいた。

カメラコレクション展示事業では、「ムービー誕生のひみつ展」や恒例となった「デビュー！NEWコレクション!!」を開催し、身近になった動画撮影の技術進歩の歴史を紹介するなど、ユーモアと解りやすさに重点を定め、カメラの魅力を伝えた。加えて「つくってみよう！カメラ・オブスキュラ!」と題したワークショップにて、見慣れた素材を使ってカメラの仕組みを学び、ピンホール現象を館内で体験できる試みを行った。

資料整備事業では、カメラ整理ボランティアの協力のもと、収蔵資料の整理・データ化を継続して実施している。

教育普及事業では、写真家によるギャラリートークや関連イベント、館長の写真教室、フォトコンテスト審査派遣、「ワンダーフォト写真展」の作品募集等を実施している。

8 古城公園動物園事業

動物園では飼育展示のほか、ふれあい広場、特別展、動物園だよりの発刊等の事業を実施した。(第38回動物園まっりは、台風17号の影響で中止)

「ふれあい広場」は、ウサギやテンジクネズミ等の小動物に直接触れることができ、来園者から好評を得ている。

レクリエーション施設としての機能はもとより、情操教育の場および環境保全への貢献のために、動物愛護の啓発や情報発信、種の保存に努めた。

9 二上まなび交流館事業

主催事業として、二上山の自然に触れる「二上山を楽しもう」を春、秋、冬に実施したほか、野外料理を満喫する「野外料理を楽しもう」や、高岡市で実施されているものづくり・デザイン科に備える「ものづくり体験クラブ」など、多彩な事業を行った。

県委託事業として、異年齢生活体験推進事業「夏合宿(小学4～6年生対象)」「なかよし合宿(小学1～3年生対象)」を実施した。家庭から離れ、異年齢集団による共同生

活の中で、生活作業体験や自然・文化に触れる様々な活動を展開した。こうした体験活動を通して、参加した子ども達は自分で考え、目的に向かって道を切り開いていく力を養い、自主性や協調性、社会性を育成することができた。

通年のクラブ活動事業として「まなびっこクラブ」を開講し、ペン習字、茶道、箏、科学工作、パソコン、卓球の6クラブを実施した。技能の向上と共にクラブ員同士の友情を深めた。

「高岡市児童アイデア工作展・高岡市未来の科学の夢絵画展」を9月にウイング・ウイング高岡1階交流スペースで開催した。応募作品はそれぞれ171点と122点で、優秀作30点と20点を、「富山県発明とくふう展・富山県未来の科学の夢絵画展」に出品した。

10月には、当館に事務局を有する外部団体（高岡市児童クラブ連合会、ボーイスカウト高岡地区協議会、ガールスカウト高岡地区協議会）と共同で「まなびっこフェスティバル」を開催し、600人を超える来場者があった。

この他、宿泊学習や親子活動などの学校教育団体、クラブ合宿やボーイスカウト、ガールスカウト活動などの社会教育団体、職員研修などの企業団体等、多くの方々に様々な体験活動の場を提供した。

なお、まなび交流館における公益目的事業の利用は、主催事業や小・中学校宿泊学習、スポーツ少年団活動など252回で、利用人数は12,865人であった。

一方、収益目的事業の利用は、研修室等の一般への貸与など60回で、利用人数は822人であった。

Ⅲ 評議員会に関する事項

1 審議内容

- | | |
|--------------------------------------|----|
| (1) 第17回評議員会 令和元年5月31日開催 | |
| 報告第1号 平成30年度事業報告について | 承認 |
| 議案第1号 平成30年度決算の承認について | 可決 |
| (2) 第18回評議員会 令和2年3月31日開催(書面によるみなし決議) | |
| 議案第2号 評議員選定委員(評議員)の選任について | 可決 |
| 議案第3号 理事の選任について | 可決 |

2 評議員の異動状況

平成31年4月1日 評議員 高橋 誠一 就任

Ⅳ 理事会に関する事項

1 審議内容

- | | |
|--------------------------------------|----|
| (1) 第43回理事会 令和元年5月14日開催 | |
| 議案第1号 平成30年度事業報告の承認について | 可決 |
| 議案第2号 平成30年度決算の承認について | 可決 |
| 議案第3号 第17回評議員会の招集について | 可決 |
| (2) 第44回理事会 令和元年12月19日開催(書面によるみなし決議) | |
| 議案第4号 令和元年度補正予算(第1号)の承認について | 可決 |

- | | | |
|-------------|----------------------|----|
| (3) 第45回理事会 | 令和2年3月30日開催 | |
| 議案第5号 | 令和2年度事業計画の承認について | 可決 |
| 議案第6号 | 令和2年度予算の承認について | 可決 |
| 議案第7号 | 評議員選定委員（外部委員）の選任について | 可決 |
| 議案第8号 | 第18回評議員会への議案提出について | 可決 |
| 報告第1号 | 代表理事と専務理事の職務執行状況について | 承認 |

2 理事、監事の異動状況

- | | | | |
|---------------|----|-------|----|
| (1) 平成31年4月1日 | 監事 | 堂故 真二 | 就任 |
| (2) 令和2年3月31日 | 理事 | 福田 直之 | 辞任 |